

# 第4学年 道徳学習指導案

1組 計33人（男子15人 女子18人）

指導者 吉田 泰斗

- 1 主題名 親切にするかきまりを守るか（2－(2)思いやり・親切，4－(1)公德心，規則の尊重）  
資料名「お兄ちゃん，取って」（自作資料）

## 2 主題について

### (1) 内容項目とその系統

| 思いやり・親切<br>2－(2)                                           | 公德心，規則の<br>尊重 4－(1)                                            |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 【低学年2－(2)】<br>幼い人や高齢者<br>など身近にいる人<br>に温かい心で接し，<br>親切にする。   | 【低学年4－(1)】<br>約束やきまりを守り，みんなが使<br>う物を大切にす<br>る。                 |
| 【中学年2－(2)】<br>相手のことを思<br>いやり，進んで親<br>切にする。                 | 【中学年4－(1)】<br>約束や社会のき<br>まりを守り，公德<br>心をもつ。                     |
| 【高学年2－(2)】<br>だれに対しても<br>思いやりの心をも<br>ち，相手の立場に<br>立って親切にする。 | 【高学年4－(1)】<br>公德心をもって<br>法やきまりを守り，自他の権利を<br>大切にし進んで意<br>義を果たす。 |

### (2) 指導内容についての基本的な立場

「思いやり・親切」とは，慈しみの心をもち他の人々への気遣いをすることであり，人のために行動に移せることである。「公德心・規則の尊重」とは，社会生活を営むために必要とされるルールを重んじる気持ちのことであるとともに，自分と相手が気持ちよく生活していくための約束事を，お互いの意志をしっかりと伝え合うことで取り交わし，生活を律することである。

この期の子どもたちは，「思いやり・親切」に関しては，相手を気遣いながら進んで行動することができる場面がある。特に，年下の者に対しては，自分が年上だから世話をしあげたいという気持ちをもつことがある。しかし，恥ずかしさや面倒くささから，正しいと思うことを素直に行動に移せなくなる場面も見られる。公德心，規則の尊重の面については，社会のルールについて知ってはいるが，それを守るべき目的についてはじっくり考えた経験が少ないと思われる。

そこで本主題では，「思いやり・親切」と「公德心，規則の尊重」という道徳的価値のよさを対比させることを通して，相手を思いやることやきまりを守ることについて考えられるようにする。そして，自分が判断する理由に，この考えがよりよいとこだわりをもって考えることができるとともに，自分なりの「大切にしたい考え」を意欲的に見付け出し，そのことを基に実践につなげていく。

### (3) 主題の指導内容及び道徳的価値の様相

| 思いやり・親切 2－(2)             |                        | 公德心，規則の尊重 4－(1)         |                            |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 【実践を阻む要因】                 | 【心構え】                  | 【実践を阻む要因】               | 【心構え】                      |
| a 自分本位<br>(自分勝手)          | ① 他人の幸福につながる<br>(利他)   | a 無関心<br>(興味・関心がない)     | ① 相手の立場に立って考え<br>られる(思いやり) |
| b 逃避・怠惰<br>(面倒くさい)        | ② みんなのためになる<br>(奉仕)    | b 自信の欠如<br>(難しい)        | ② 達成感を味わえる<br>(達成感)        |
| c 無関心<br>(自分には関係ない)       | ③ 満たされた気持ちになる<br>(充実感) | c 逃避<br>(無理だ，あきらめ)      | ③ よりよい自分になれる<br>(向上心)      |
| d 楽観<br>(どうにかなるだろう)       | ④ 正しいと思うことをする<br>(誠実)  | d 怠惰<br>(面倒だ)           | ④ 自分の未熟さを学べる<br>(謙虚)       |
| e 他への欲求<br>(他にしたいことがある)   | ⑤ 感謝される<br>(他者からの称賛)   | e 楽観<br>(これくらいでいい)      | ⑤ 我慢強さが身に付く<br>(忍耐)        |
| f 羞恥心<br>(恥ずかしい)          | ⑥ よりよい自分になれる<br>(向上心)  | f マンネリ化<br>(飽きた)        | ⑥ 他人の幸福につながる<br>(利他)       |
| g 奉仕精神の欠如<br>(人のためにしたくない) | ⑦ 助け合うよさが分かる<br>(意義)   | g 他への欲求<br>(他にしたいことがある) | ⑦ 認められる<br>(他者からの称賛)       |
| h 不安<br>(相手のためになるのか)      | ⑧ 人を大切にしようとする<br>(意志)  |                         | ⑧ 秩序ある社会になる<br>(社会性)       |
|                           | ⑨ 不安に負けない<br>(勇気)      |                         |                            |

(4) 本主題に関連する体験活動等

| 思いやり・親切 2－(2)   |                        |    |                       |
|-----------------|------------------------|----|-----------------------|
| 事前              | ○ 妙円寺遠行 (相手を思いやって歩けたか) | 事後 | ○ ダンス発表会 (相手に親切にできるか) |
| 前               | ○ 掃除 (年下に親切に教えられたか)    | 後  | ○ 係活動 (思いやりながら行動できるか) |
| 公德心、規則の尊重 4－(1) |                        |    |                       |
| 事前              | ○ 日常生活 (時刻を守って行動できたか)  | 事後 | ○ 日常生活 (時刻を守ることができるか) |
| 前               | ○ 廊下歩行 (廊下を正しく歩けたか)    | 後  | ○ 廊下歩行 (廊下を正しく歩けるか)   |

(経験の想起)

【本時】  
11月「親切にするかきまりを守るか」  
(思いやり・親切 2－(2)、公德心、規則の尊重 4－(1))

(よりよい生き方を  
目指した行動)

3 子どもの実態 (調査日 平成25年9月6日)

調査人数 31人 複数回答あり

【思いやり・親切 2－(2)】について

【公德心、規則の尊重 4－(1)】について

(1) 本主題に関する経験場面①

| 親切にすることができた経験        | 人数 |
|----------------------|----|
| ・ 友達をなぐさめて話を聴いた      | 11 |
| ・ 「大丈夫」と声を掛けた        | 8  |
| ・ 荷物を持ったり席を譲ったりした    | 6  |
| ・ 手伝い (料理・洗濯・掃除) をした | 3  |
| ・ ゲームや道、勉強などを教えた     | 2  |
| ・ 落ちているごみを拾った        | 1  |

(2) 本主題に関する経験時の感情

| 親切にすることができた時の気持ち  | 人数 |
|-------------------|----|
| ・ いい気持ち、よかった、うれしい | 18 |
| ・ またやろうと思った       | 9  |
| ・ 成長したなあ          | 3  |
| ・ 人のためになっていたかなあ   | 1  |

(3) 本主題に関する経験場面②

| 親切にすることができなかった経験  | 人数 |
|-------------------|----|
| ・ おばあちゃんに席を譲れなかった | 9  |
| ・ 落とし物を拾わなかった     | 8  |
| ・ 声を掛けなかった        | 5  |
| ・ 友達を待たずに先に帰った    | 3  |
| ・ 道を譲らなかった        | 3  |
| ・ 物を貸さなかった        | 2  |
| ・ 道を聞かれ答えなかった     | 1  |

(4) 本主題に関する経験の理由

| 親切にすることができなかった理由  | 人数 |
|-------------------|----|
| ・ 自分のことしか考えていなかった | 5  |
| ・ いらいらしていた        | 5  |
| ・ 面倒くさい、やる気がなかった  | 5  |
| ・ 疲れていた、足が痛かった    | 4  |
| ・ 急いでいた           | 4  |
| ・ 誰かがすると思った       | 3  |
| ・ 関係無いと思った        | 3  |
| ・ 他のことがしたかった      | 2  |

(5) 道徳的価値の意義

| 親切にするとどんなよいことがあるか  | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ ありがたうと言われてうれしくなる | 13 |
| ・ お礼をしてくれる、恩返しされる  | 6  |
| ・ 自分も相手もよい気分になる    | 5  |
| ・ 幸せが来る            | 3  |
| ・ またやろうと思える        | 2  |
| ・ また遊んでくれる、友達になれる  | 2  |

(6) 道徳的価値に対する心構え

| 親切にするためにどんな考えをもつか  | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ 人にされたらうれしいことを考える | 9  |
| ・ 嫌なこともやる、面倒くさがらない | 6  |
| ・ 人を助けたい           | 5  |
| ・ 全部自分に返ってくる       | 4  |
| ・ 相手が喜ぶと自分もうれしくなる  | 4  |
| ・ 相手のためという気持ちをもつ   | 3  |

(1) 本主題に関する経験場面①

| きまりを守ることができた経験     | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ 廊下を走らない、帽子をかぶり登校 | 9  |
| ・ 午後6時までに家に帰った     | 7  |
| ・ ゲームセンターに行かない     | 4  |
| ・ ヘルメットをかぶった       | 4  |
| ・ 公園でのきまりを守った      | 4  |
| ・ 手洗いうがい、宿題を終わらせる  | 3  |

(2) 本主題に関する経験時の感情

| きまりを守ることができた時の気持ち  | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ よかった、すっきりした、うれしい | 18 |
| ・ これからもがんばろう       | 7  |
| ・ ほっと安心した、終わってよかった | 4  |
| ・ 大人に近づいた、自分の役に立った | 2  |

(3) 本主題に関する経験場面②

| きまりを守ることができなかった経験  | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ 廊下を走った           | 10 |
| ・ 帰宅時刻を守れなかった      | 9  |
| ・ 水泳帽子やヘルメットをかぶらない | 4  |
| ・ 点滅で信号を渡った        | 3  |
| ・ 校区外に行った          | 2  |
| ・ 本の返却が遅れた         | 2  |
| ・ 行ってはいけない所へ行った    | 1  |

(4) 本主題に関する経験の理由

| きまりを守ることができなかった理由 | 人数 |
|-------------------|----|
| ・ 慌てていた、急いでいた     | 8  |
| ・ 遊ぶのに夢中だった       | 6  |
| ・ 面倒だった           | 5  |
| ・ もう少し遊びたかった      | 4  |
| ・ 集中していなかった       | 2  |
| ・ 気を付けなければいいと思った  | 2  |
| ・ 日焼けをしたくなかった     | 2  |
| ・ したいゲームがあった      | 2  |

(5) 道徳的価値の意義

| きまりを守るとどんなよいことがあるか | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ すっきり、うれしい、いい気持ち  | 19 |
| ・ 褒められる            | 7  |
| ・ 迷惑が掛からなくなり明るくなる  | 2  |
| ・ 安全になる、事故が起きない    | 2  |
| ・ 怒られない            | 1  |
| ・ 信頼される            | 1  |

(6) 道徳的価値に対する心構え

| きまりを守るためにどんな考えをもつか | 人数 |
|--------------------|----|
| ・ 強い気持ちをもつ         | 10 |
| ・ 自分やみんなのためにきまりがある | 8  |
| ・ 夢中にならない          | 7  |
| ・ 必ずいい気持ちになる       | 4  |
| ・ 充実できる            | 1  |
| ・ 守らないと生きていけないと思う  | 1  |

まず、「思いやり・親切」については、(1)から親切にすることができた経験には「友達をなぐさめたり話を聴いたりした」が多い。(2)から親切にすることができた時の感情は、「よかった」や「嬉しかった」が多い。(3)から親切にできなかった経験に「席を譲れなかった」や「落とし物を拾えなかった」が多い。(4)から、親切にすることができなかった理由は、「自分のことしか考えていなかった」や「いらいらしていた」が多い。(5)から、道徳的価値の意義として「ありがと」と言われ、うれしくなる」が多い。(6)から、道徳的価値に対する心構えとして「人にされたらうれしいことを考える」が多い。

次に、公德心、規則の尊重については、(1)と(3)から、きまりを守れたり守れなかったりした経験に「廊下歩行」や「帰宅時刻」が多い。(2)から、きまりを守れた時の感情は、「よかった」や「うれしかった」などが多い。(4)から、きまりを守ることができなかった理由は「慌てていた」や「急いでいた」が多い。(5)から道徳的意義として「すっきりし、うれしくなる」が多い。(6)から道徳的価値に対する心構えとして「いいことが待っている」が多い。

#### 4 資料について

##### (1) 資料のあらすじ

工場見学に行く前の休み時間に、ドッジボールを思い切り楽しんだ主人公の健太。時間に遅れないように教室に帰ろうとした時、同じマンションに住んでいる1年生の大地君から「ボールを取って」と頼まれた。ボールは高い木の枝に引っかかり、なかなか取れそうにない。早く教室に戻らないといけな。しかし、大地君がボールを取れずに困っている。そうしている中、チャイムが鳴った。きまりを守るかボールを取ってあげるか健太は迷ってしまった。

##### (2) 資料の分析・子どもの反応予想

| 場 面                                       | 分析（価値に関する様相 p 1 から）                                                                                                                                                          | 予想される子どもの反応                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 大地君からボールを取ってと頼まれた健太<br>【喜び・思いやり・親切】     | 【思いやり・親切】<br>① 他人の幸福につながる（利他）<br>③ 満たされた気持ちになる（充実感）<br>⑤ 感謝されたい（他者からの称賛）<br>⑥ よりよい自分になれる（向上心）<br>⑧ 人を大切にしようとする（意志）                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頼りにされていてうれしい。</li> <li>・ 困っているから取ってあげよう。</li> <li>・ 喜んでもらえるとうれしい。</li> <li>・ ありがとと言われたたい。</li> <li>・ よりよい自分になれるぞ。</li> <li>・ 大地君のために取ってあげたい。</li> </ul>                                                                             |
| 2 きまりを守り教室に帰るか親切にボールを取ってあげるかで迷う健太<br>【葛藤】 | 【思いやり・親切】<br>① 他人の幸福につながる（利他）<br>⑧ 人を大切にしようとする（意志）<br>b 逃避・怠惰（面倒くさい）<br>c 無責任（自分の事ではない）<br>【公德心、規則の尊重】<br>② 達成感を味わえる（達成感）<br>⑧ 秩序ある社会の成立（社会性）<br>c 逃避（無理だ、あきらめ）<br>d 怠惰（面倒だ） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どちらを選べばいいのだろう。</li> <li>・ 困ったなあ。迷うなあ。</li> <li>・ 相手が困っているのだから遅れてもいいから取ってあげよう。</li> <li>・ 遅れてもきっと分かってくれる。</li> <li>・ 今は教室に帰ることが大切だ。</li> <li>・ 学年のみんなが待っているのだから遅れるわけにはいかない。</li> <li>・ 無理だ。取れない。</li> <li>・ 誰かが取ってくれるだろう。</li> </ul> |

この資料は、主人公の健太が「親切にボールを取りに行く」と「きまりを守り教室に帰るか」で迷う話である。この思いやり・親切と公德心、規則の尊重の2つの価値葛藤が中心となる内容は、親切にしたいが守るべきものがあるために、どちらを優先するかで迷うという子どもたちにとっても、身近な内容であり共感しやすい。子どもたちは、主人公の気持ちに寄り添いながら、2つの道徳的価値について比較したり関係付けたりすることを通して、価値に対する理解をより一層深め、道徳的判断力を培うことができる資料である。なお、この授業は2時間扱いとなるため、1時間目は内容理解を十分促し、2時間目は話合いの充実を図るために、道徳的判断が同じ者同士で話し合う同類間交流と、道徳的判断が異なる者同士が話し合う異類間交流を取り入れる。

#### 5 指導に当たって

##### (1) 「思考活動」を充実させるつながりを重視した道徳の時間

道徳の時間の事前と事後とのつながりを重視する。事前において、本時で扱う道徳的価値である「思いやり・親切」と「公德心、規則の尊重」についての実態調査を行い、子どもたちが日常生活や考えを振り返る「思考活動」の充実を図る。また、事後には、本時で活用したワークシートに記した「大切にしたい考え」を思い出す「思考活動」の機会をつくり、道徳の時間と日常生活とのつながりを大事にする。

##### (2) 「思考活動」を充実させる他者との交流

資料の主人公の心情に迫る「見つめる」過程において、「親切にボールを取りに行くか」「きまりを守り教室に帰るか」のどちらであるか自分の考えを明確にもち、他者との交流を通して自分の考えを分類・整理する「思考活動」の充実を図る。その際、資料の主人公の気持ちにより共感できるようにワークシートを活用する。ワークシートに自分の考えを表現することを通して、自分の考えを明らかにすることができるようにする。また、同類間や異類間で友達と考えを交流することで、比較・関係付けながら自分の考えを分類・整理できるようにしていく。

(3) 「思考活動」を充実させる「評価資料」の工夫

子どもの実態をより道徳の時間に反映させ、道徳の時間を通して「思考活動」を積み重ねる子どもの姿を見取る「評価資料」を工夫して活用する。「評価資料」で抽出した注目児については、座席表に明記し、実態調査の情報と合わせて意図的指名や個に応じた指導に役立てる。

(4) 「思考活動」を充実させるICT活用

終末の「高める」過程において、子どもが自分の思いを表現する「思考活動」を促すことをねらいとして、書画カメラや電子黒板などのICTを活用し、「見つめる」過程から「深める」過程にかけて自分の考えがどのように変容したかを、ワークシートを提示して表現できるようにする。このように、他者に伝えるためにICTを活用した表現活動をすることにより、もっと自分の考えを表現したいという夢・希望を膨らますことができるようにする。

6 指導計画（全2時間）

| 時間         | 主な学習活動<br>◎中心となる「思考活動」                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 教師の指導・評価 ◇ ICT活用                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一時間目       | <p>資料「お兄ちゃん、取って」を読み、主人公（健太）の心情を場面ごとに話し合う。そして、最後の場面ではどうしたかを考え、判断し、理由付けを行う。</p> <p>1 写真を見て今までの経験を想起する。</p> <p>2 資料「お兄ちゃん、取って」を読み、相手への親切ときまりを守ることにについて、内容を詳しく押さえる。 ◎分類、整理</p> <p>3 主人公の葛藤場面をつかみ、「どうしたらよいか」判断・理由付けし、ワークシートに記入する。 ◎表現（比較・実感）</p>                                                                             | <p>◇ 実態調査を基に、親切にしている（困っている人に声掛けをしている）子どもやきまりを守っている（廊下歩行）場面などの写真を準備して、興味・関心を高める。</p> <p>○ 主人公の葛藤状況を理解させるために、置かれている立場を整理して板書し、場面の状況や問題の背景、葛藤の様子が分かるように丁寧に確認する。</p> <p>◇ 電子黒板を活用しながら、資料の内容を分かりやすく提示する。</p> <p>○ 判断・理由付けについては、充分時間をかけてできるだけ詳しく書かせるようにすることで、2時間目の交流活動への意欲が高まるようにする。</p> <p>○ 自分の判断・理由付けを明確に記入できたか。（評価：ワークシート）</p>                                                                             |
| 二時間目<br>本時 | <p>前時の判断・理由付けを基に、友達と考えの交流を行い、再度主人公「健太」はどうしたかを判断し、理由付けを行う。</p> <p>1 資料を読み、主人公の葛藤状況を把握し、1時間目の判断・理由付けの確認をする。</p> <p>2 それぞれの判断・理由付けについて、意見交換を行う。</p> <p>3 最後の判断・理由付けをワークシートに記入することで、自分なりの道徳的価値判断とその理由付けをする。 ◎分類、整理</p> <p>4 感想を書くことを通して、自分なりに「大切にしたい考え」の収束を図り、話合いのまとめをする。</p> <p>5 話合いの前後を比べて、自分の考えの変容を実感する。 ◎表現（比較・時間）</p> | <p>◇ 電子黒板を使い、主人公の葛藤状況を再確認できるようにする。</p> <p>○ 1時間目の判断・理由付けを一覧表にしたものを掲示し、いろいろな見方・考え方があることを知らせる。</p> <p>○ 1時間目の代表的な意見を提示する。</p> <p>○ 自分の立場を明確にして、積極的に友達と考えを交流するような声掛けをする。</p> <p>○ 1時間目の理由付けや子どもの意見から、論点を絞って提示する。</p> <p>○ 積極的に意見や質問を述べられたか。（評価：ワークシート、発表、観察）</p> <p>○ 話合い後に感想を書く。その中に再度、判断・理由付けをワークシートに記入するようにさせる。その際、1時間目に記入した考えにとらわれることなく、自由に書くことを助言する。</p> <p>○ 道徳的な見方・考え方が高まっているか。（評価：ワークシート、発言、観察）</p> |

7 本 時 (2 / 2 時)

- (1) 目 標 「思いやり・親切」と「公德心・規則の尊重」に関わる2つの道徳的価値を追求することを通して、人に親切にしようとする心情やきまりを守ろうとする心情を育てる。
- (2) 「思考活動」を充実させる他者との交流  
○ 1時間目で明確にした自分の考えをもって、同類間・異類間グループの友達の考えと交流することで、他者の考えとの比較・関係付けができる。
- (3) 展 開 ○ は教師の言葉掛け ( ) は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目 ◎ は「思考活動」 ☆ はICT活用の留意点

| 過 程<br>(分)               | 主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教 師 の 指 導                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気<br>付<br>く<br>(5)       | 1 前時を振り返り、学習のめあてについて確認する。<br><div>親切にするかきまりを守るかでまよった時の「大切にしたい考え」は何だろう。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 事前に判断・理由付けしていたワークシートを配付することで、振り返って考えることができるようにする。                                                                                                                                                                                            |
| 見<br>つ<br>め<br>る<br>(25) | 2 資料「お兄ちゃん、取って」を視聴し、主人公の健太の置かれている葛藤状況を思い出す。<br>(1) 1年生の大地君にボールを取ってと頼まれた場面。<br>・ 頼りにされてうれしいな。 ・ 取ってあげよう。 ・ 助けてあげよう。<br>(2) 親切にボールを取ってあげるかきまりを守り教室に帰るか、迷う場面。<br>・ どうしよう。 ・ きまりは守らないと。 ・ 遅れてもいいから取ってあげよう。                                                                                                                                                                                                        | ○ 前時の判断・理由付けを一覧表にしたものを掲示することで、いろいろな見方・考え方があ<br>ることを知らせる。<br>☆ 電子黒板を活用して資料を視聴することで再度、話し合う場面の焦点化を図ることができるようにする。                                                                                                                                  |
| 深<br>め<br>る<br>(10)      | 3 主人公の葛藤場面について考える。<br>(1) 1時間目の判断が同じ子ども同士で、理由付けについて話し合う。(同類間交流)<br>(2) 同類間グループで話し合ったことを基に自分の考えを全体へ発表する。<br>[ボールを取りに行く]<br>・ 大地君がかわいそうだ。<br>・ みんな分かってくれるだろう。<br>迷い<br>[教室に帰る]<br>・ 時間は守らないといけない。<br>・ 学級全体に迷惑を掛けてしまう。<br>(3) 1時間目の判断が異なる子ども同士で、理由付けについて話し合う。(異類間交流)<br>(4) 異類間グループで話し合ったことを基に自分の考えを全体へ発表する。<br>[ボールを取りに行く]<br>・ 1年生に親切にしたい。<br>・ 人を守ることができる。<br>迷い<br>[教室に帰る]<br>・ 集団に迷惑をかけない。<br>・ よりよい集団になる。 | ○ 発表により出された判断・理由付けを板書することで、全員が他者の考えを把握できるようにする。<br>○ 前時に異なる意見をもつグループを把握し、グループごとに分かれるよう指示する。<br>○ 限られた時間内で話し合いが進むように司会の児童を決めておく。<br>○ 友達の考えを肯定的に聴くことで、互いのよさを見付けることができるように、助言する。<br>◆ 同類間や異類間で子どもが交流することで比較・関係付けながら自分の考えを明らかにしている。【観察、発言、ワークシート】 |
| 高<br>め<br>る<br>(5)       | 4 最終的な判断・理由付けを行う。 ◎分類・整理<br>[ボールを取りに行く]<br>・ 時間を守る方がいいと思ったけど、親切にしたい気持ちの方が大事だと思う。<br>[教室に帰る]<br>・ 親切にする気持ちを大切にしたいと思ったが、やはりルールを守ることの方が大事だと思う。<br>5 前時からの学習をワークシートを基に振り返って、自分の考えの変容に気が付き、発表する。 ◎表現(比較・実感)<br>・ 最初、時間を守り教室へ帰ると思っていましたが、「見捨てることができない」という考えを聴いて、そうだなあと感じたので、ボールを取りに行くという考えに変わりました。<br>・ 最初は、親切にボールを取りに行くと思っていましたが、「時間を守る人は信頼される」という考えを聴いて、その通りだと感じたので、教室に帰るという考えに変わりました。                            | ○ 前時の判断にとらわれずに、最終判断できるようにする。<br>○ ワークシートに自分なりの判断・理由付けが書けているか確認をする。<br>◆ 話し合い活動を通して交流してきた考えを、ワークシートに分類・整理しながら表現することで、自分の考えの変容を実感している。【観察、発言、ワークシート】<br>☆ 子ども自らICTを使い自分の考えを表現することで、考えの変容を実感できるようにする。                                             |

## 第4学年「思いやり・親切」と「公德心，規則の尊重」における「評価資料」

### 重点評価項目

- 1 「思いやり・親切」と「公德心，規則の尊重」のよさについての考えを，価値観の類型化を取り入れ分類・整理することで，子どもたちが友達の考えと比べ，多様な考えに気付いたり，大切な考えを見付け出したりしている。
- 2 終末で本時の学習を振り返り，ワークシートを見比べることを通して，自分の考えの変容を実感している。

### 評価の観点

- ア 友達の考えと比べることで，多様な考えに気付き，自分の考えを広げている。（重点評価項目1）
- イ 多様な考えの中から大切な考えを見付け出し，自分の考えを深めている。（重点評価項目1）
- ウ 自分の考えの変容に気付き，ICTを活用して全体に説明することで，表現することのよさを実感している。（重点評価項目2）

### 評価方法

ア…発言・観察，イ…ワークシート・「自分づくりカード」，ウ…ワークシート・発言・観察

### 評価の実際

「ア 友達の考えと比べることで，多様な考えに気付き，自分の考えを広げる」について（重点評価項目1）

- 友達の発言や分類・整理された板書を基に，多様な考えに気付き発言している。【発言・観察】

<事前>

<事中>

<事後>

「イ 多様な考えの中から大切な考えを見付け出し，自分の考えを深める」について（重点評価項目1）

- 多様な考えの中から大切な考えを見付け出し，ワークシートの「大切にしたい考え」に生かしている。【ワークシート・「自分づくりカード」】

<事前>

<事中>

<事後>

「ウ 自分の考えの変容に気付き，ICTを活用して全体に説明することで，表現することのよさを実感する。」について（重点評価項目2）

- ① 自分の考えの変容に気付いている。【ワークシート・観察】

<事前>

<事中>

<事後>

- ② 自分の考えの変容を，ICTを活用して全体に説明している。【発言・観察】

<事前>

<事中>

<事後>

## お兄ちゃん、取って

二時間目の終わりのチャイムが鳴りました。すると先生が、

「三・四時間目は、清掃工場に見学に行くことになっています。チャイムが鳴ったら、すぐに教室に帰って来るように。」

とおっしゃり、休み時間が始まりました。最近、雨が多かつたため校庭で遊べない日が続いていましたが、今日は青空が広がっています。

ボール遊びの好きな健太は、久しぶりにドッジボールをしようと友達をさそって校庭に出ました。晴れわたった空は、一段と健太をやる気にさせました。今まで遊べなかつた分、みんな元気に楽しく遊んでいます。汗まみれになつてドッジボールをしていると、あつという間に時間が過ぎてしまいました。すると、たけしが、

「もうそろそろ休み時間が終わるから、教室に帰ろう。おくれるとみんなにめいわくをかけるからさ。」

と言いました。みんなは、ドッジボールをやめて教室に向かい始めました。するとその時、後ろの方からこまつたような声が聞こえてきました。

「お兄ちゃん、取って。」

ふり向くと同じマンションに住んでいる一年生の大地君でした。

「ボールが取れなくなっちゃったんだ。お兄ちゃん、取って。」

まだチャイムが鳴っていないかつたので、健太はだいじょうぶだと思い大地君に手を引かれるまま付いていきました。

「あそこにひっかつたの。」

そこは、プール横の大きな松の木でした。手を伸ばしても届かない高さです。長い棒でひっかけるか、ボールを当てるかでしか取れそうにない所にボールがありました。どこかに長い棒はないかと探しに行こうとした時です。三時間目が始まるチャイムが鳴りました。

「ボールをちゃんと持って帰らないと、ぼくのせいでボール遊びができなくなっちゃう。

お願い。お兄ちゃん、取って。」

大地君は、今にも泣き出しそうです。でも、三時間目はクラスみんなで工場見学に行くことになつていて、チャイムが鳴ったら、すぐに教室に帰ってくるようにと言われています。

「どうしよう。」